

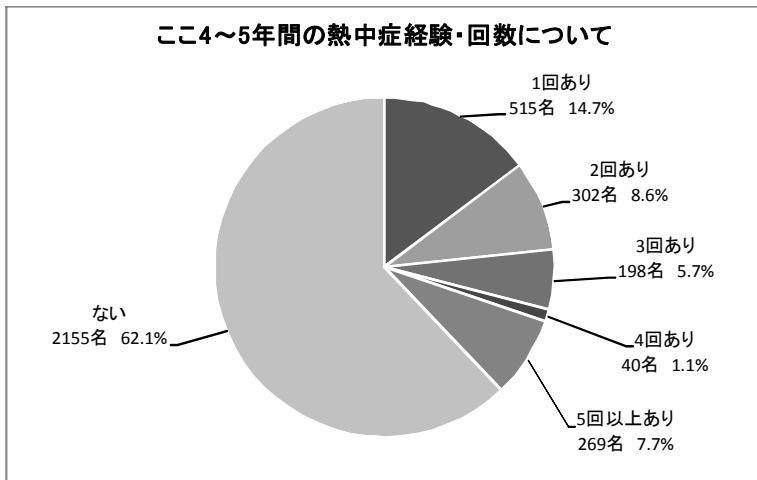
コンクリート圧送工事における熱中症予防にご協力をお願いします

一般社団法人 全国コンクリート圧送事業団体連合会

- 打設箇所に送風・冷却設備の設置をお願いします。
- 休憩時間を確保できるようご支援・ご配慮をお願いします。
- 交替要員の配置が必要な場合、工事費割増へのご理解をお願いします。

夏期の打設計画でのご配慮をお願いします

圧送技能者の熱中症経験者は約3人に1人



全国コンクリート圧送事業団体連合会(全圧連)が全国の会員企業の圧送技能者に実施したアンケート調査(平成24年度実施、3467名が回答)では、この4～5年間で熱中症を経験した者は約3人に1人のほりります。

夏期の平均気温が上昇傾向にある中、コンクリート圧送作業に従事する圧送技能者にとって、熱中症は深刻な問題となっています。

熱中症経験者のうち、Ⅱ度以上の症状の経験者は約3人に1人

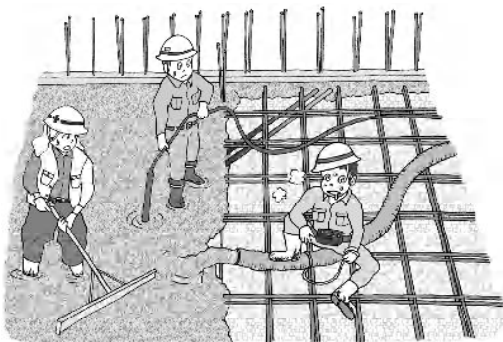
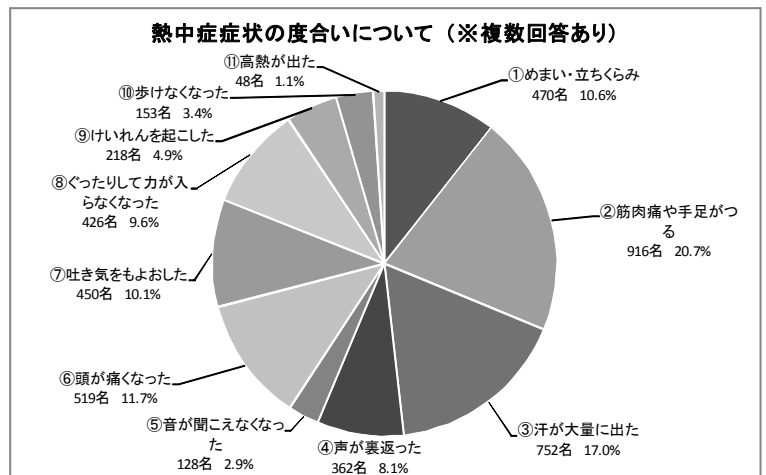
熱中症を経験したことのある全国の会員企業の圧送技能者のうち、

I度の症状(軽度:日陰での休息や水分補給が必要)の経験者が59.1%、

Ⅱ度の症状(中等症:病院にかかり補液を受けることが必要)の経験者が31.4%、

Ⅲ度の症状(重症:救急車で病院搬送し入院治療の必要あり)の経験者が9.4%という調査結果でした。

Ⅱ度以上の症状を経験している圧送技能者は約3人に1人のほりります。



参考：熱中症の症状と重症度分類

分類	I度	Ⅱ度	Ⅲ度	
症状	①めまい・立ちくらみ ②筋肉痛・手足がつる ③大量の発汗 ④声が裏返る ⑤音が聞こえなくなる	⑥頭痛 ⑦吐き気 ⑧倦怠感	⑨けいれん ⑩運度障害、歩行障害 ⑪高体温・高熱	I度 涼しい場所に移り体を冷やす。水分を補給する。症状が改善しない、悪化する場合は病院へ搬送する。 Ⅱ度で自分で水分・塩分が補給できないとき、Ⅲ度の症状であればすぐに病院へ搬送する。
重症度				

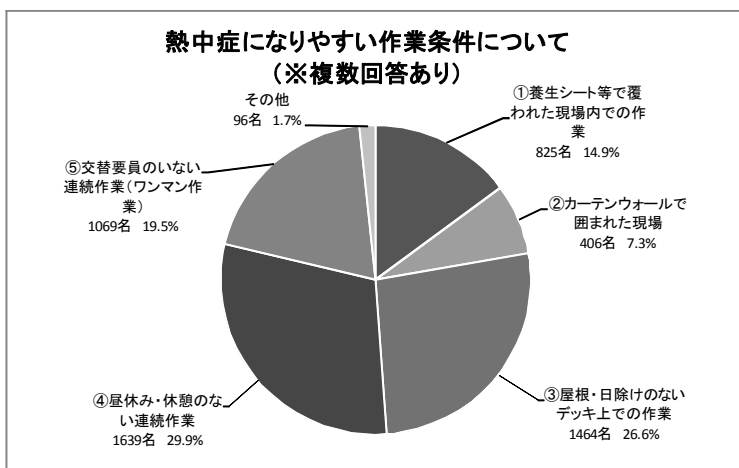
休憩・交替のない圧送作業を熱中症の原因に挙げる技能者が約半数

生コンクリートは時間とともに硬化します。特に気温の高い夏期は硬化が早く、いったん生コンクリートを圧送し始めると、簡単に作業を止めることはできません。

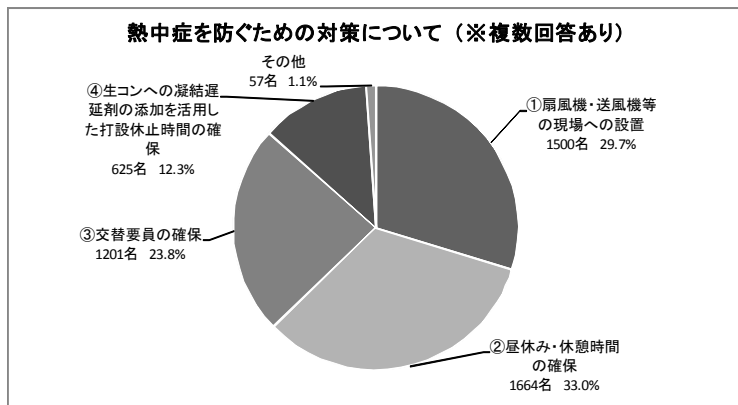
また、コンクリート圧送工事に従事する圧送技能者は少人数編成のため、コンクリート打設に多人数で携わる他の職種のように交替して休憩をとることもできない状況にあります。

コンクリート打設が行われる現場は、日よけのない野外か、転落防止の養生シートで覆われた風の通りにくい過酷な作業環境下が多く、また、一般的にコンクリート温度は、生コン工場での練上りから現場での荷卸し時までに平均気温よりも 5℃程度高くなるといわれています。

このため、日本建築学会では、施工者や工事監理者に対して、夏期のコンクリート打設においては作業員の健康管理と安全を考慮した打込み体制を計画すること、荷卸し時のコンクリート温度が 35℃を超えないよう対策に努めることを定めています。(建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事)



休憩時間を確保できる施工体制を要望する声が約7割



夏場の過酷な作業の軽減化、熱中症を防ぐための対策として、交替要員の配置などによる休憩時間の確保を要望する声が、69.2%にのぼる調査結果となっています。

コンクリート打設箇所への送風・冷却設備の設置をご検討願うほか、圧送技能者が休憩時間を確保できるよう、現場でのご支援・ご配慮をお願いいたします。

- 打設箇所に送風・冷却設備の設置をお願いします。
- 休憩時間を確保できるようご支援・ご配慮をお願いします。
- 交替要員の配置が必要な場合、工事費割増へのご理解をお願いします。

夏期の打設計画でのご配慮をお願いします

コンクリート圧送工事の安全作業に努めています!



一般社団法人

全国コンクリート圧送事業団体連合会

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-13

藤野ビル7階

TEL 03-3254-0731 FAX 03-3254-0732